

kubotatu

look for the 21st century hero
came to understand who the hero is

くぼたつ世界冒険録～21世紀のヒーロー度チェック編——— **最終回**



21世紀のヒーローを求めて

「秘密の時間」「秘密の場所」「秘密の自分」を
持っていて、その声に『エイヤー!』って向かって
行けるやつが21世紀のヒーローなのさ(結論)

Photo: Kikuchi Eiji

9回にわたって「くぼたつの冒険録」をお届けしてきたこの連載も、今月で最終回を迎えた。バイクでのアメリカ大陸横断から始まって、モンゴルラリーからサンタフェ流オフィス改造計画まで、くぼたつの「アドベンチャーライフ」を満喫していただけだろうか。

この連載の一貫したテーマは「21世紀のヒーロー」を探すことだった。ロッキー山脈でソーラーマンに会った。モンゴルで遊牧民と暮らした。サンタフェの天才たちと議論した。そして、世界中のヒーローを通してくぼたつが見つけた結論は

「あなたの21世紀ヒーロー度を診断してみよう」 check whether you are 21st century hero or not

【インターネットスキル】

- Q1：異性に自分のデジタル写真をメールで送ったことがある
Q2：メールがないと1日が始まらない
Q3：携帯メールにはまっている
Q4：自分のホームページがある
Q5：めんどくさくて早くやめたいが、ホームページの更新は毎週やっている
Q6：スケジュールはデジタルで管理する

【体力】

- Q7：走るの遅いが歩くのは好きだ
Q8：PCのモニター画面を10時間以上続けて見られる
Q9：コンビニ以外の食材を口にする

【英語】

- Q10：外人に道を聞いてほしいと思う
Q11：写真しか見ないが海外のウェブを見る
Q12：外人のメール友達がいる
Q13：洋画を字幕なしで観る一瞬がある
Q14：マイレージポイントを自慢する

【視野】

- Q15：好んで仕事関係者以外と飲む
Q16：迷ったら新しいほうを選んでしまう
Q17：知らないテレビ番組とわかるとつい見る
Q18：通勤途中に他人の新聞を盗み読みする
Q19：実は「やまんばギャル」に感心がある

【IQ】

- Q20：鏡を見ながら自分は天才だと思う
Q21：IQテストは本気でやったことがない
Q22：天才を見ると真似したくなる

【マインドコントロール】

- Q23：デート前にテンションをあげられる
Q24：失恋したときモリカバリーは超早い
Q25：喜怒哀楽を演じられる自分が怖い
Q26：スポーツ観戦をする

【ワークスタイル】

- Q27：最先端の仕事術を知るとやりたくなる
Q28：飽きるので仕事の方法を工夫している
Q29：朝型だ

【ライフスタイル】

- Q30：「エイヤー！」が俺の人生だ
Q31：稼いだ金は自己投資に使っている
Q32：かっこよく生きたい
Q33：親を大切にしている

【モチベーション】

- Q34：自分流の哲学がある
Q35：よく変わるが趣味はいつも持っている
Q36：思い立ったら行動は早い
Q37：早とちりでよく痛い目に合う

【論理思考力】

- Q38：三段論法を知っている
Q39：その場のうそをつくのがうまい
Q40：笑いを取るのが好き
Q41：聞き手の顔を見ながら話せる

【アドベンチャー意識】

- Q42：子供のころ秘密基地を持っていた
Q43：秘密の時間と空間を持っている
Q44：秘密の自分を持っている
Q45：秘密の技を持っている

【柔軟性】

- Q46：勝ち負けにこだわらない
Q47：練習に弱い为本番に強い
Q48：何事も手離れがいい
Q49：過去や未来を気にしない

【アイデア力】

- Q50：人まねが何よりも嫌い
Q51：暗記よりもその場の思いつきが得意
Q52：アイデアの特許を取っておけば、大金持ちになっていたと思うことがある
Q53：人にアイデアを盗まれたことがある

【パソコンスキル】

- Q54：パソコンをひっぱたいたことある
Q55：パソコンを友達だと愛撫したことある
Q56：パソコンが壊れたとき虚無感を感じた
Q57：パソコン環境をカスタマイズしている

【ビジネススキル】

- Q58：これまでになんらかのビジネスで成功した経験がある
Q59：自分で作ったものを売ったことがある
Q60：日本で売ったら売れると思うものを海外で発見したことがある
Q61：苦勞なしに自分の会社や店を作りたい

【情報力】

- Q62：ニュースはまず疑ってかかる
Q63：読み物はおもしろい内容から読む
Q64：ノミネーションが大好きだ
Q65：本はよく買うがろくに読まない
Q66：自分の口は硬いが、口が軽いやつを友達にしている

「最終回の主役は読者の方々なんだよ」 you play the leading role in the final round

「21世紀のヒーローは自分自身である」だった。21世紀は1人の英雄を崇拜する時代ではない。いまこそ自分の中にヒーローを見つけるべきだと彼は言うのだ。

でも、ここで1つの疑問が残る。そもそも「21世紀のヒーローとはなんなのか」。そして「21世紀のヒーローになるための条件とはなんなのか」。もちろん、くぼたつが連載の中で語った言葉の中に、その答えを見つけた人もいだろう。しかし、

もっとはつきり、最終回にふさわしい結論を聞きたい。

そんな編集部からのリクエストに答えてくぼたつから1通の挑戦状が

届いた。それが上の診断表だ。まずは16項目にわたるチェック項目に答えて自分のヒーロー度がどのくらいかを自覚せよとのこと。います



ぐ上の質問で「YES」と答えた数をメモしておこう。次ページで自分のヒーロー度がわかる。ただし、ヒーロー度が低くてもがっかりすることはない。くぼたつが最後に明かすヒーローの条件を実践すれば、あなたも必ずヒーローになれるのだ。

最終回に冒険するのはくぼたつではなく、この記事を読んでいる読者の方々だ。さあ、覚悟を決めて自分自身を見つめるアドベンチャーにくり出そう。

部屋の中でプランコを楽しむ
ソーラーマンの奥さん



スタンフォード大学のキャンパスで見つけた才女



NYのノーホーでアイデアをデジメモする才媛

「ヒーローの条件をはっきりさせようじゃないか」 I would like to show the condition of heros

まずは、診断表の結果から。「YES」の数でヒーロー度が決まる。

- 66～60：ヒーロー達人
- 59～45：ヒーロー上級
- 44～25：ヒーロー中級
- 24～10：ヒーロー初級
- 10未満：ヒーローひよっこ

なんと言っても欠かせないのは「インターネット」と「体力」と「英語」だね。特に「インターネットスキル」は必須。ポイントはインターネットっていう新しいデジタルコミュニケーションの世界を実体験の中で感じ取れているかだね。そのうえで、「この世界でなにができるか」をひらめいちゃうセンスが必要。人間がやっていることを全部コンピュータに置き換えようとする人はセンスがない人。わざわざ人間がやんなくてもいいところをコンピュータにやらすのがセンスのいい人。ここが重要ね。

それから、「ライフスタイル」。これは社会とか会社とか、従来の形に迎合しないことだね。媚びを売らない。そういうのに固執することなく、躊躇なく「エイヤー」で思ったことをやれる人がヒーロー。

次に「アイデア」。ありそうでなかったものを言い当てられるやつが一番すごい。画期的なアイデアとか、超未来的なアイデアとかは単なる技術革新でしかない。その技術をビジネスや生活にどう役立てるか、それが本当のアイデアなんだ。要するに「ソフト」の部分だね。ありそうでなかったことにピッと気づいて、それを実際に導入して社会的に貢献できるのがヒーロー。

これはサンタフェ研究所で学んだことだけど、アイデアを生む空間を大事にしているかも重要だね。日本は学校も会社も「情報を蓄積するだけの環境」なのよ。だから、学校でも決まった通りにやる生徒だけが評価される。新しいことを

やると「すごい」とは言われるけど、どうすごいのかをきっちり評価できる先生はいない。とにかく知識を溜め込むだけで安心しているんだな。そういうところからは生産的なことも画期的なものも生まれにくい。だから、アイデアを生み出すには紙も書類もなにもない環境が一番。自分の頭と体のなかにある「これがしたい」を中心に生活できる人がヒーローだね。

そしてすべての項目に関連するのが「コラボレーション」。なにかをやろうとしても、1人じゃ無理だよ。でも、いまの学校や会社のなかにはコラボレーションできる環境がない。組織のなかだと男女や年齢や地位とかのハンデキャップがあるでしょ。その点、インターネットは

バリアフリーだよ。性別、年齢、民族、肌の色なんてのが見えない。このバリアフリーの世界が21世紀に花開くと思ってるんだよ。「昔から天才はコンプレックスの裏返し」っていうでしょ。だから有色人種のコンプレックスが逆にバネになって出てくるかもしれない。女性蔑視に苦しんだ才能のある女性が一旗あげて大成功するかもしれない。

最後にもう1つ。21世紀なんていうと「時代はどうなるんだろう。時代に振り落とされるんじゃないか」っていう不安を感じることもあるよね。そんな風に感じている人に一言「時代はそんなに簡単には変わりませんよ。これでもうOKでしょ。こんなのが21世紀のヒーローの条件かな。

さて、この連載でヒーローが自分だったことはわかったよね。で、いままでの話は冒険を通してそれを見つけていうことで、「アドベンチャーライフ編」だったわけ。次はヒーローとしての自分がビジネスの世界に同じマインド

で飛び込んだらどうなるかってのをやりたいな。題して「アドベンチャービジネス実践編」。つまり、秘密の時間にやりたいことを自分で探したら、それがたまたまビジネスだったって人の

ための実践講座だよ。

で、ビジネスっていうのはお金にならないとだめっていう絶対的な条件がある。ここからやるのは、好きなことでお金を稼ぎたいと思った人が具体的にどんな工夫をすればいいかだね。いままでの「素質」に関する話。これからはおれが実際にやってきた相手より早く、多く、成功するためのノウハウを大公開しようと思う。

簡単に言うと、挑戦の繰り返しになるだろうね。挑戦の仕方かな。「おもしろいことを仕事にする」ってことに挑戦するわけ。で、どうやってその方法を伝えようとするかという、まず、もの見方と考え方だね。もの見方を鍛えられる



モンゴルの砂漠で暮らす未来の麗人

「秘密の時間になにをしたいかを考えてみな」 what do you want to do in your secret time?



ブライスカニオンを散策するたくましい母と子(上)
デイトナビーチで笑顔のサーブिसをしてくれた南部系美人(下)

人には4通りのタイプがあって、「西遊記」って実はそれを表した物語なんだよ。4人の登場人物がそれぞれ人間の煩悩を表している。まず三蔵法師は夢しかない。死ぬとわかっていても夢に向かってまっすぐ行っちゃう。孫悟空はとにかく強いけど、自分のビジョンを持っていないからその力をなにに使っていいのかわからない。猪八戒はひたすら快樂だけに生きてる。沙悟浄は常に人を観察してる。なんでいつも夢を持てるのか、なんであんなに強いのか、「なんで？」って憧れてるわけ。でね、日本に多いのは沙悟浄タイプなんだよ。

おれも「さすらいのライダーブロンソン」とかに憧れて、バイクでアメリカ大陸を横断すればヒーローが見つかるんじゃないかと思ってた。まさに沙悟浄をやったわけね。で、実際に行ってみたら、みんな好きなように生きてた。好きなように生きてる人はやっぱり生き生きとしてた。三蔵法師みたいなのやたらばかりだったのよ。それでわかったね、「ああ、日本で好きなように生きてたおれがヒーローだったんだ」ってね。

ヒーローが登場する番組を見て「バンザイ」ってやって、憧れて、一晩寝て夢から醒めるたらもとの生活なんてのは昔の話。最近なくなってきたじゃない、そういう番組。

それはなんでかっていうと、これからはみんながヒーローになれる時代だからなんだよ。もう憧れるんじゃないで自分がヒーローのように生きればいいんだよ。かつて見たヒーローをはなにも頼りにしてなかった。損得とか結果とか考えてなかった。だからみんなそこに気づかないとだめ。いまどこかにヒーローがいてくれるなんて思っていたら大間違いだよ。

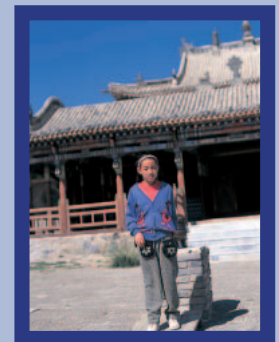
「じゃあ、なんのヒーローになれるの？」って思うよね。それこそ十人十色。いままでは十人十色だった。それが十人十色になる。ひよっとすると一人十色かもしれない。「一人特色」ってのが一番いいかな。自分の作り出した色で生きている人こそ魅力的なんだよ。

そこで、ここからが一番重要なポイントなんだけど、じゃあ、自分の特色って何かってことだよ。もう一度、診断表の『秘密の時間を持っているか』を真剣に考えてほしいな。秘密ってすごく大切なものじゃない、つまり「秘密=宝」だよ。だから、秘密の時間、自分が宝物のように思える時間になにをやっているかに答えがあるわけ。何百時間やり続けても辛いことってなにかを考えればいい。たとえば歌手に憧れるじゃない、でも本当に歌が好きじゃなきゃ100時間も歌い続けられない。歌で勝負をすればしたら、相

手は秘密の時間に歌だけやれるやつだから、憧れだけじゃ絶対に勝てっこないわけ。三蔵法師は秘密の時間に天竺に行こうとした。秘密で行くんだから、失敗してもはずかしくない。誰かと比べることもない。

で、いまはインターネットがある。そうすると今まで秘密だったものがオープンになるでしょ。だから人の秘密の時間が見えるようになったわけ。これはおもしろいよね。秘密でやってた同志が見つかるんだよ。それでコラボレーションまで始まっちゃう。というわけで、これがこの連載の結論だね。「秘密の時間」「秘密の場所」「秘密の自分」を持っていて、そこから聞こえてくる声に「エイヤー」って向かって行けるやつ、それが21世紀のヒーローなのさ。

モンゴルで出会った美少女



か、広い視野を持てるか、固定概念にとらわれずに自分を広げていけるかとかそんなことだね。大変な努力なのよ、これは。あと、どれだけ反射神経を研ぎ澄ませていけるかとかも重要だね。

ビジネスって、守ろうとしたり、確実じゃなきゃやろうとしなかったりするでしょ。そこに成功は絶対にありえない。だから、攻めるビジネスってどういうことか、その辺を言っていくことなのかな。ビジネスの基本ってね、攻めと守りなんです。で、攻めっていうのはやっぱりアイデア中心。守りは経営だったり経理だったりする。それを両方持っていないと経営者として成り立たないし、どうやってそれを両立させ

「アドベンチャービジネス講座を始めるよ」 let's start the adventure business lessons!

るかなんてのもおもしろいかもね。

第1回は一番わかりやすい「ビジネス企画書の書き方」かな。1個のビジネステーマを考えて、企画書を書いて、それをプレゼンして、お金を集めて、最後に形にするまでのテクニックを数回にわたってやってみるのもいいね。

たとえば中小企業をデジタル化したらどうなるだろうとかをやるのもおもしろい。日本の場合、ヒーローが中小企業から出てくる可能性がある。中小企業の社長っていう

のは一か八かで始めた人が多いわけよ。いま日本に70万社以上の中小企業があるんだって。ということは、ゼロから始めてそこそこまでいった人が70万人もいるってことなんだよ。そこにインターネットが入ってきた。昔ながらの護送船団に慣れちゃった人たちが、なにもしないほうがいいと頭に叩き込まれた人たちが変な社会教育を受けずに、いきなりネット上で思い通りのビジネスを展開する大卒の社長なんてのがあたりまえに出てくるようになる。

ネットワークの世界っていうのはね、何万人も社員を抱えるところが強いなんてものじゃないのよ。たった1人で何万人もいる大企業と差して勝負ができる。そこががおもしろいわけ。だから、大手はやっぱり大手しか相手にしないだろうと思ってる中小企業の社長に「ネットワークというのは違いますよ」というメッセージも送りたい。小さいものが大きいものを打ち負かせる世界だからって話を次の連載では思いっきりやってみようよ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp